

「走り水ノ瀧」 国名勝指定へ

(坂本町深水)

指定名称 「肥後領内名勝地 五郎ヶ瀧 聖り瀧 走り水ノ瀧 建神ノ岩 神ノ瀬ノ岩屋」

平成26年11月21日、国の文化審議会が文部科学大臣に国名勝指定を答申。平成27年3月頃、官報に告示の見込みです。なお、五郎ヶ瀧と聖り瀧は山都町、建神ノ岩は氷川町、神ノ瀬ノ岩屋は球磨村に所在しています。

※国指定名勝とは文化財保護法に基づいて、わが国にとつて芸術上または観賞上、学術上価値の高い名勝地として永久保存・活用するために指定されるもの。



今回の指定は熊本藩主第8代細川斉茲が、藩の御抱絵師に領内の優秀な風景地を選んで絵巻物に描くことを命じて作成した『領内名勝図巻』に描かれている風景地の中から、5箇所を選定し指定するものです。

その一つ「走り水ノ滝」は坂本町深水台の中流を流れる一級河川球磨川水系走水川に懸かる滝で、県下最大級の規模を誇る瀑布であり比高約100m、滝口から滝壺までの長さも約100m、滝口の幅約3m、滝壺の幅約10mです。

別名深水滝と呼ばれ、滝の西側にある板の平集落から滝を眺望すると白く見えたことから「白滝」とも呼ばれています。昭和21年の水害で展望所から向かって右側が滝壺に崩落したため、今では昔と違った趣を醸し出しています。

これまで地元の深水地域振興会が維持してきた滝が国の宝となります。問合せ 文化まちづくり課 ☎334533

滝の守り神 大蛇伝説

いつの頃からかは定かでないが、滝の付近に大蛇が住み着き荘厳な滝の守り神として人々を寄せ付けませんでした。

それが、ある年の大雨で川が氾濫し、滝の守り神であった大蛇が居なくなつたそう、その年に蛇籠港で大蛇の死体が発見されたことが話題になったと伝わっています。



▶電柱廃材などを利用して造られた展望所(平成19年完成)



▲185mの遊歩道 ▲林道から展望所への入口(平成18年完成)

地域の宝「これまででもこれからも」

深水地域振興会 橋口徳逸 会長

以前から滝の存在は知られていたが近くで眺めることができませんでした。

それを平成18年に地域で知恵と力を出し合い、遊歩道整備を計画。地権者の交渉から資機材の調達、機械を使った掘削整備、防護柵の設置までを自分たちで行い、翌年には現在の展望所を完成させました。

完成を機に地域では、深水社会教育センターから展望所までを往復するウォーキングイベントを企画し毎年開催しています。近年は100人以上の参加があり、地域外からの参加が6割を超える人気行事となりました。

現在、遊歩道の管理は地域振興会の環境開発部が中心となって地域に呼び掛け、年2回の清掃と補修などの作業を行っています。

今年度より滝周辺の再整備計画に着手しており、まずは遊歩道周辺に山桜やもみじなど約50本を植え付ける予定で、すでに支障木などの伐採を終えています。また展望所から滝壺付近までの遊歩道をきれいに整備する構想もあります。

今回の指定を機に新たな事業を考へ、地域内外の理解者と協力しながら、地域の資源と連携することで地域や町全体が活気づけばと思います。